

でじまの木

2025

Vol.26

社会医療法人 春回会
出島病院
DEJIMA HOSPITAL



Contents

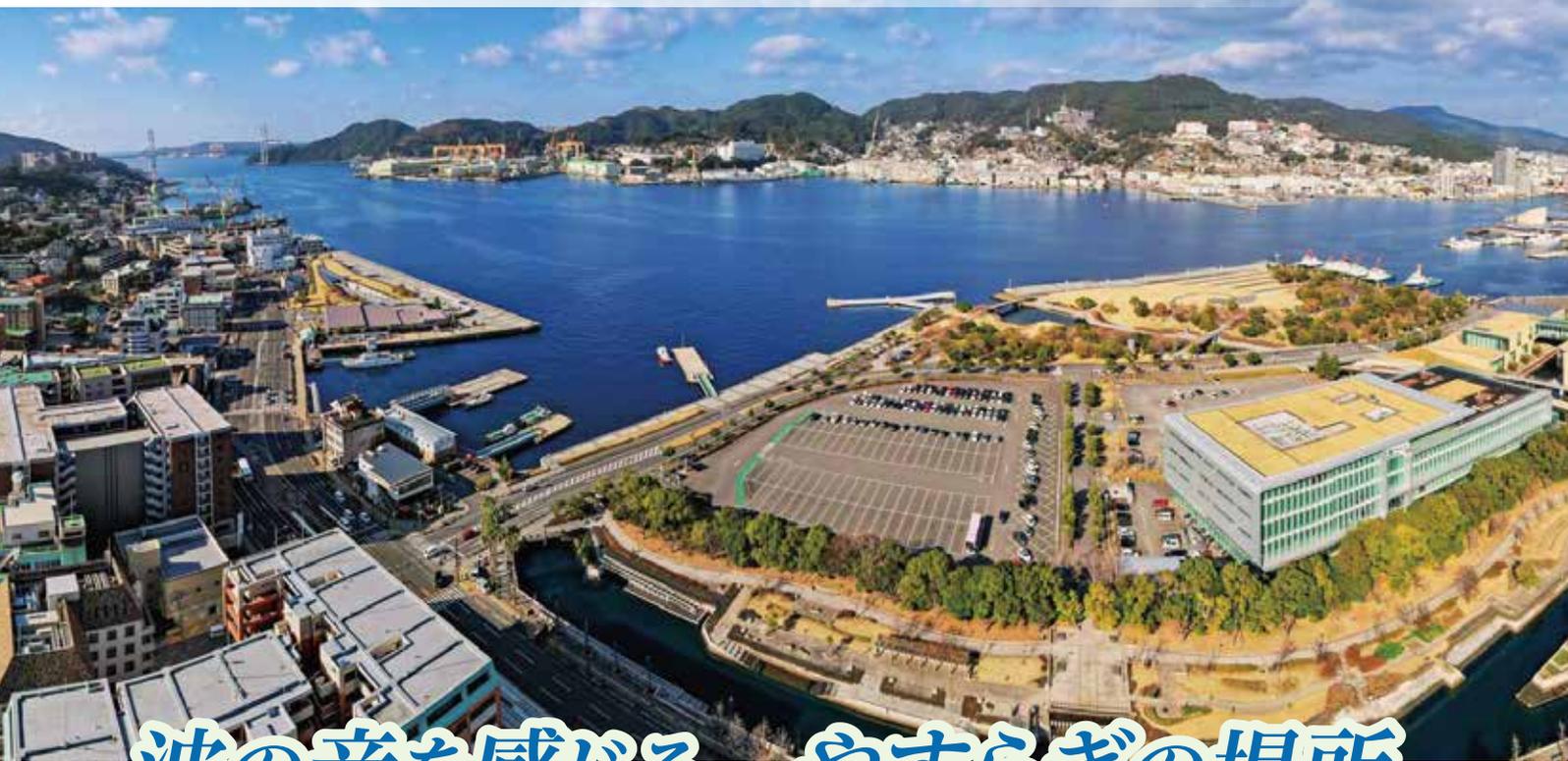
 2026年秋 新築移転	2
 がん看護専門看護師として地域に根ざす	3
 季節イベント	4
 新人紹介	5



デジマノキ

「デジマノキ」は幕末の頃、オランダ人がインドネシアから移植した日蘭交流の貴重な記念樹です。日本では唯一ここに生息する木で県指定の天然記念物として、今も出島病院発祥の地に、およそ150年の時を超える命をつないでいます。

2026 年秋 出島病院 新築移転



波の音を感じる、やすらぎの場所。

長崎の名所を一望。穏やかな気持ちで過ごせる場所に来年秋に移転します。

新しく生まれ変わる出島病院は、すべての患者さまが“自分らしく”過ごせる場所をめざし、全室個室・トイレ付きの病棟へと進化します。私たちが大切にしているのは、その人らしさを尊重した、やすらぎのケア。がんと向き合う患者さま、ご家族に寄り添いながら入院・外来・訪問診療が一体となった緩和ケアを提供します。

1. 「全室個室・長崎の景観を感じられる」病棟で、より快適な終末期医療を

新病院では全室が個室化され、すべての病室にトイレを完備。患者様とご家族のプライバシーと尊厳を守りながら、安心して過ごせる環境を整備しました。緩和ケアの質を一層高めるハード面の充実が実現します。

2. 「入院・外来・在宅」がつながる地域緩和ケアのハブ機能を強化

入院治療に加え、外来での緩和ケア、訪問診療・看護など在宅療養への支援をワンストップで提供。法人内の在宅支援センターや訪問看護ステーションも併設し、地域の医療機関・介護施設と連携して、切れ目ない支援体制を構築します。

3. 「多職種チーム+DX推進」でより質の高い医療を

医師・看護師・薬剤師・リハビリ・MSW・管理栄養士などの多職種が連携するチーム医療体制に加え、電子カルテや業務支援ツールの導入により、業務効率化とケアの質の両立を実現。患者様一人ひとりのQOL向上を目指します。



問い合わせ先情報掲載 出島病院 事務局 095-822-2323

がん看護専門看護師として地域に根ざす

出島病院 外来 がん看護専門看護師 岩月まり子

2024年4月に広島県から転居し、6月から外来で勤務しています岩月まり子と申します。

私は、がん看護専門看護師(以下OCNS)の資格を取得し、15年目になりました。きっかけは、外科病棟で看護師として3年が経過したころ、「自分の看護は正しいのか?」「看護をしている目的は?」と悩むようになり、患者さんのもとへ行くことが怖くなったことです。「力をつけたい」と思い、5年目のときに、働きながら修士課程へ進学しました。

資格を取得してからは、大学病院で病棟スタッフとして働きながらOCNSとしての実践力を高めた時期、がん相談支援センターで組織横断的活動を通し患者を中心としたチーム調整に没頭した時期、訪問看護師として基幹病院・地域・行政をつなぐ窓口として奔走した時期、という経緯をたどりました。現在は、特に訪問看護の経験を生かしながら、外来と訪問診療を担当しています。

私は、地域とのつながりを深めながら、最期まで自宅で過ごしたいという患者さんやご家族の思いを実現するため、在宅緩和ケアの質向上に貢献していきたいと思っています。

在宅では、病院とは異なるスピード感や患者さんを支える様々な職種の方との関係性があり、より個別性に富んだ対応が求められると思います。治療面では、どのような症状が出現するのか予測し対策を立てることは、がん終末期患者の在宅緩和ケアにおいて重要なプロセスです。内服困難時に備え、坐薬や輸液・注射剤の準備はどうか、夜間のSPO2低下に備え、酸素濃縮装置や吸引器の設置はどうか、せん妄時の対応はどうか等、主治医や訪問看護師・在宅薬剤師と話し合います。生活調整面では、トイレまでの歩行が困難になった場合はどうか、食事摂取量が低下した時の工夫はどうか等、リハビリスタッフやケアマネージャー・管理栄養士と話し合います。また、ご家族は最期まで自宅か、それとも入院か、と意思が揺らぎ二転三転することもありますので、様々な職種と情報共有し、心の揺れに

寄り添いながら意思決定支援を行っています。

このような中で、私が大切にしていることは、俯瞰的に「何ができるのか」「患者さんにとっての最善は何なのか」を考え、自分の目で確認し、行動し続けることです。電話でのやりとりでは伝わりづらいこともあるため、実際に訪問看護師やケアマネージャーと同行訪問を行い、患者さんやご家族について理解を深めたり、それぞれの立場や役割について理解を深めたりしています。今後より一層、出会いとコミュニケーションを大切にしながら顔の見える関係づくりを構築し、よりよい在宅緩和ケアを地域の医療・介護職の方々と一緒に実践していきたいと思っています。

そして、地域の中で活動しているOCNSは、まだまだ少ないのが現状です。同じように病院所属のOCNSが地域の中で活動できるよう、モデルになっていけたらと思っています。

私がこのように活動できるのも、管理者をはじめとする周囲の方々の支援によるところが大きいと実感しています。OCNSとしての能力を高めるための助言や学ぶ機会を与えてくださるなど、やりたいことを尊重してもらえる、恵まれた環境で働ける毎日に感謝です!



のんちゃん(オス)



ちろ美ちゃん8歳(メス)

季節イベント

ひなまつり



端午の節句



七夕まつり/出島カフェ 開催報告

コロナ禍を経て、久しぶりに「出島カフェ」が七夕まつりと同時開催され、多くの皆さまにご来場いただき、盛況のうちに無事終了いたしました。

今回は、塩澤先生が“マスター”として登場され、心を込めて丁寧に淹れてくださった美味しいコーヒーが、来場者の皆さまにも大変ご好評をいただきました。

会場は終始和やかな雰囲気に入れられ、温かく楽しいひとときとなりました。

また、活水女子大学 栄養実習生の白石美樹さんにもお手伝いいただき、イベントを支えてくださいました。

ご参加・ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました！



新人スタッフからの **ひとつ** Message



看護師 ひろた ひろこ
広田 博子

患者様とご家族の抱える痛みを理解し、その痛みを少しでも和らげることができるような看護師になれる様に経験を積みしていきたいと思っています。



看護師 さかい めぐみ
酒井 恵

緩和ケアは未経験なのでゼロから学ばせて頂きたいと思っています。



リハビリテーション科 理学療法士・士長(PT) きくち ゆうき
菊地 結貴

今まで築き上げてきた出島病院のリハビリテーション科を仲間と共に増々発展させていきたいと考えています。患者様・家族に寄り添ったリハビリテーションを実践していきます。



リハビリテーション科 言語聴覚士(ST) かわはら さとみ
川原 仁美

3月から出島病院所属になりました。STは1人で不安なところもありますが、自分にできる事を精いっぱい取り組んでいきたいと思っています。6月いっぱい産休に入らせていただきますが、戻ってきたらよろしくお願ひします。



リハビリテーション科 理学療法士(PT) つじ ゆいこ
辻 結子

5月から出島病院に異動してきました。早く仕事に慣れるように頑張ります。



リハビリテーション科 作業療法士(OT) しもむら きい
下村 季衣

5月からの異動で不慣れな点も多いですが、少しでも早く仕事を覚えてチームの一員として貢献できるように努力します!



看護助手 にしやま ひさか
西山 寿華

皆さんに教わりながら頑張りたいと思います。



事務 たがわ あけみ
田川 明美

異業種からの入職で至らぬ点も多いと思いますが、理念に沿い、「笑顔で皆様に寄り添った行動」を心がけてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



事務 なかむら ひでこ
中村 英子

笑顔と平常心で患者様、ご家族に安心感を与えることのできる対応を心がけてまいります。



病院理念

すべては患者さんにご家族のために
～ 寄り添い、共に、よりよく、その人らしく～

病院 基本方針

1. 全てのいたみを癒す緩和医療を提供します
2. チーム医療を実践しQOL(生活の質)の向上に努めます
3. 安心と満足の医療を提供します
4. 向上に励み、謙虚な心で質の高い医療を提供します
5. 喜びと誇りを持てる病院を目指します

フロアガイド

7F	コインランドリー・物干し場
6F	10床 (個室8室、2人部屋1室)
5F	10床 (個室6室、2人部屋2室)
4F	9床 (個室5室、4人部屋1室)、 リハビリ室
3F	8床 (個室3室、2人部屋1室、 3人部屋1室)・厨房
2F	画像診断室・事務室・医局・検査室
1F	外来診察室・地域医療連携室・受付・薬局 医事課・会議室



日本医療機能評価認定病院
【3rdG: Ver.2.0】



社会医療法人 春回会

出島病院
DEJIMA HOSPITAL

〒850-0862 長崎市出島町12番23号

TEL (095)822-2323 (代表)

FAX (095)822-8855

ホームページ <http://www.shunkaikai.jp>

エリアマップ



病院までのアクセス

- JR長崎駅より出島電停まで電車で5分
- 出島電停より徒歩3分
- 出島道路出入り口より車で2分